

公民館報

発行

2023

9/30

松本市広報R5-37

●問い合わせ 中央公民館

TEL 32-1132 FAX 37-1153

●編集 公民館報編集委員会

●印刷 株式会社プラルト

まつもと



シリーズ 受け継ぎ伝える松本のたから 63

赤のコラボレーション

すすき川花火大会の大輪と
心臓を思いやる「健康ハートの日」にちなみ
ライトアップされた松本城

(撮影 2023.8.10 城山)



さっそく、「夏まつり」の情報を掲載

今までは配布物や閲覧物の情報掲載としての役割が大きかったのですが、個人情報等、一部掲載できないものがあるものの、掲載内容に制限はありません。実際に地域づくりセンター内の「掲示板」に貼られている「掲示板」など掲載しているのか検討しているとのことです。

誰でも情報が受け取れるように、松本市のホームページに地区の配布物や回覧物を掲載しています。7月から掲載範囲を拡大し、町会や町会内のグループ（組や子ども会などの小さな単位）からの掲載が可能になり、地域の掲示板としてリニューアルしました。

実際に掲示板の活用を開始した神林地区地域づくり伊藤裕明センター長に、今後の活

「町会」・「組」の掲示板

市のホームページに、町会単位の情報を掲載する仕組みが作られ、身近な情報の発信と閲覧が可能になりました

用について話を伺いました。

回覧版からスタート

まずは地区と同様にそれぞれの町会独自の回覧物の掲載を始めました。町会の方々と協力しながら、掲載を増やしたいと思いを語ります。

提出された電子データや紙の資料の掲載は、地域づくりセンターで判断を行い、締め切りはなく掲載します。

広がる可能性

掲示を希望する方はこちら



地域の掲示板はこちら



掲示の方法 閲覧の方法は二次元コードから選択してお進みください

田川地区の皆さんへ

松本市から	他団体から
福祉ひろばから	公民館から

町会会員の皆さんへ

各町会から	町会内のグループ
-------	----------

各地区で様々な掲示板が展開されています

小さい単位での情報掲載が進み、例えば「犬を探しています」のような、より身近な情報も掲載希望があるかもしれません。「こんなことを掲載していきたい・いただきたい」というアイデアがあればお気軽にご相談ください」と話しています。

運用は始まったばかりで、まだ掲載は一部の地区・町会にとどまっていますが、アイデア次第で面白い活用が期待できそうです。

わがまち自慢「あんさんぶる」芳川地区

新しい形の多世代交流の場ができました

芳川地区のイオンタウン松本村井の2階に「こどもプラザ」と「福祉ひろば」の機能を併せ持つ松本市初の施設「あんさんぶる」がオープンしました。



こどもプラザは、とにかく大人気!

芳川こどもプラザは土・日・祝日も利用ができ、市内プラザでは一番広いフロアで思いつきハイハイができまます。就学前の乳幼児と保護者が対象の施設で、オープンは当初は芳川地区をはじめ松本市内外から来場し、多い時には140組280人以上の親子で賑わいました。

土日利用する方はご家族で「あんさんぶる」に来館し、お父さんがお子さんと一緒に遊んでいる間にお母さんが買



南部地域に多世代交流の場が誕生

い物をしてる姿も多く見られます。

芳川地区みなみひろばでは、「ひろばの利用者の方が会話をし、元気をもらいうことがあ。こどもプラザにきているお母さんたちが参加できるようなことも考えていきたい」とコーディネーターの矢ヶ崎さんは抱負を語ります。また体操や工作の開催日には、お子さんやお母さんが参加することもあります。こどもプラザの市川センター長は「プラザとひろばの利用者が交流する様子はとても微笑ましい。このような時間が増えて自然な交流ができていくと思う」と話してくれました。



利用者が訪れています。
特に、こどもプラザは、市内5か所の中で早くも一番人気に。みなみ福祉ひろばでも、団扇づくり、いきいき百歳体操など多彩な取り組みがスタートしています。買い物もできるお勧めスポットです。
まだ行っていないという方、のぞいてみてはいかがでしょうか？



「あんさんぶる」オープン！

松本市多世代交流型子育て支援施設



大人気の芳川こどもプラザとみなみ福祉ひろば

7月12日にイオンタウン松本村井にオープンした多世代交流型「芳川こどもプラザ」と芳川地区みなみ福祉ひろば（愛称 あんさんぶる）は、立地の良さと、明るく広い空間、遊具もふんだんなことから、毎日多くの



令和5年9月1日 現在
総世帯数 8,216世帯
総人口 17,416人
男 8,705人
女 8,711人

- 芳川地区地域づくりセンター**
☎58-2034
- 芳川出張所**
☎58-2034
- 芳川公民館**
☎58-2034
- 芳川福祉ひろば**
☎57-0168

※芳川地区地域づくりセンター、芳川出張所、芳川公民館へご連絡は同じ番号となります。



ご利用案内

芳川こどもプラザ
火～日曜日（月曜休）

みなみ福祉ひろば
月～金曜日（土日祝休）

時間は、いずれも午前9時～午後5時

☎85-1055



あんさんぶる

利用時間
午前9時から午後5時

休館日
【ひろば】
土・日・祝日・年末年始
【プラザ】
月・火・水曜日
祝祭日の場合、変更あり

混雑時には、ご利用時間を制限させていただきますので、ご了承ください。



▲かわいい高山植物もたくさん!!
カメラで見せきれなくて残念です!!

幸運の女神に選ばれた30人が、足取りも軽やかにウォーキングを楽しみました。
(8月2日)

自馬五竜 高山植物園 ウォーキング

観測史上一番暑かった今年の夏。みなみ福祉ひろばのオープン記念に、自馬五竜高山植物園の散策を企画したところ、高原の涼を求める申込希望者が殺到。



▲澄み渡る青空のもとゆっくりと散策



アイシングクッキー作り
(講師:Cookie Life 鱈川さん)



電子マネーの知識を学ぼう
(講師:キッズマネースクール認定講師 中村さん)



普段はなかなか経験することができないような体験型講座として、4日間に渡り、区内の「小学4～6年生向け夏休み特別講座」を開催しました。真剣なまなざし、静寂につつまれた部屋、そして、あふれる歓喜と躍動！講座に参加した子どもたちからは、「またやりたい！」という声が多く寄せられました。

夏休み特別講座を開催しました。



飛行機はなぜ飛ぶの？
(講師:信州大学 柳原先生)



ダブルダッチ体験
(講師:松本深志高校ダブルダッチ部)



各町会とも徐々に開催 夏のイベント

祭

美芳町では8月2・3日に、青山様・ぼんぼんが行われました。4年ぶりの開催となったため、初めて参加する子どもたちが大勢いましたが、お神輿を先頭に参加者全員で元気に町内を練り歩きました。



8月8日に小屋町会第一公民館で、第24回小屋町ふれあい夏祭りが行われました。大勢の子どもに参加してもらい元気な姿をみることができました。



北原町では6月30日、福祉ひろば「出張ふれあい健康教室」で、二胡(中国の楽器 奏者の野田裕子さんを招いて演奏会を開催、素敵な音色が会場に流れていました。



たちばなし

関西の大学に進学して5ヶ月が経った。「初めての一人暮らし」「初めての大学の定期試験」。生まれてからもう18年経ったはずなのに「初めて」が満載の春夏だった。夏休みになり、ゴールデンウィークぶりに帰ってくる事ができた松本は、高速バスから降りたその瞬間から、程よく暑い夏の気温と澄み切った空気が肌に触れて、どこか懐かしく、とても心地が良かった。

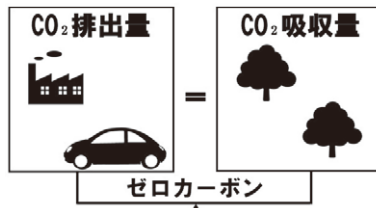
関西での一人暮らしの中では、いわゆる「失ってから気づくもの」を多く感じた。松本の空気、気候のありがたさはもちろん、水が美味しいところだったり、地元にあった松本山雅の存在の大きさや、家族と過ごすことの楽しさなどなど挙げ始めたらキリが無い。自分にとって松本は特別であると気づくことができたのも、今回が初めてかもしれない。ただ、この特別というのは、「恵まれた自然環境の下にあること」や「松本城があること」などの地理的な要因だけではなく、自分が小中高と学生生活などを過ごしてきた松本に、どことなく深く大きな愛着を感じているのだろう。

視点

⑬ 信州大学 茅野恒秀 准教授
 みんなで
 チャレンジ

地道な調査

各地で異常な暑さ、局地的な大雨による甚大な被害が続出しているなか、環境問題への取り組みは急務です。



温室効果ガスの排出量を実質ゼロに

信州大学の茅野准教授(人文学部)は、環境社会学を専門にしており、研究の柱は森林とエネルギーです。これまでに、安曇野市内のまきストロブの導入状況、松本市および周辺地域の太陽光発電所の実態を調べました。特にまきストロブの調査は、煙突が設置された家を一軒ずつ歩いて探しており「これだけ地道にフィールドワークを行った研究室は他にない」と胸を張ります。

茅野先生が指導する社会学

徹底した現場主義

研究室は、現場主義を大切にしています。環境問題が存在する社会は複雑であり、実体をとらえないと解決策が見えてこないからです。環境問題は技術面だけを解決すれば良いのではなく、家庭環境や地域内の人間関係など、背後にある社会課題にアプローチする必要があります。

茅野先生の研究室は、地域と丁寧に向き合い、地域を理解したうえで、住民が環境問題に主体的に関われる仕組みづくりを行っています。

私生活の断片

松本市は環境省の脱炭素先行地域に選定されています。茅野先生が「自分にできること、地域にできることはたく



▲乗鞍でのヒアリング調査

さんある」と述べるように、松本市民として一人ひとりができることを考え、地域からアクションを起こしていくことが求められます。今こそ松本の風土である住民自治力を活かすときです。

茅野先生にインタビュー!



写真でつづる まつもと今昔⑥2

～ 昭和・平成・令和と続く～



(撮影：1979.8.14)

第33回お城盆踊り、大勢の人がやぐらを囲んで踊っている。写真からもその賑わいが伝わってくる。当時はこの盆踊りが、夏の大きな楽しみだったのだろう。昭和のよき日を感じさせる。



(撮影：2023.8.16)

人々が街に戻ってきた。台風がそれて天候に恵まれたこともあり、数年ぶりに3日間の開催となった。市民や国内外の観光客の参加も多かった。75回目を迎えたこの伝統が、今後も続くことを願う。

おこひる

退職して何か心に風が吹くような毎日、そんな時広報まつもとに「じいちゃん先生」の募集があり後先考えず応募した。面接は通過、次は保育園で子どもたちと遊ぶ実習、孫のクラスに当たりビックリ。事情を話し別々に赴任した▼非農家で何をどうして良いか戸惑ったが、畑の耕作はネットで調べたり娘の嫁ぎ先の母さんに聞いたりの毎日だった。まず土作りという事で自作のサイロを作り地域の老人会の協力を得て落ち葉を集め、堆肥作りをした。二年目から良好な野菜がたくさん採れてビックリ▼今年はずれタス、キャベツを給食で使用。園長と相談し年長の子どものたこの家に持ち帰らせた。家の方々から無農薬なのになりっぱな野菜だとほめられた。今後ジャガイモ、サツマイモなど収穫した野菜を持ち帰らせる計画だ▼畑は保育園の下にあり、毎度子どもたちのガンバレコールや笑い声を聞きながら耕作し、通勤時は卒園した小学生たちからおはようのハイタッチ、薬より効く子どものものパワーをもらい健康で頑張りたい。

再発見!! まつもと地名がたり ①
 豊かな湧水と国史跡「井川城」 鎌田地区

今回から新シリーズが始まります。地名の由来をもとに、今後も伝え続けたい地区の歴史や伝承文化を紹介していきます。

鎌田地区は、奈良井川と田川の合流点の南側、松本駅に比較的近い住宅地域です。人口約2万人、新旧17町会で構成される市内で最も大きな地区です。

井川(城)

この地域の開発は、建武の新政に信濃守護となった小笠原貞宗が小島の井川の地に守護所を構えた(井川城下区・1340年頃)ことに始まり

ます。井は豊かな湧水地のことです。戦国時代に林城へ移るまで、この地は信濃国の政治の中心地でした。

平成29(2017)年、井川城跡は里山辺の林城跡とともに「小笠原氏城跡」として国史跡に指定されました。館跡は守護にふさわしい規模で、武家の暮らしぶりを物語る中国陶磁器や座敷飾り、茶道具や基石など、出土品が多数発掘されています。



今は祠のみの井川城跡

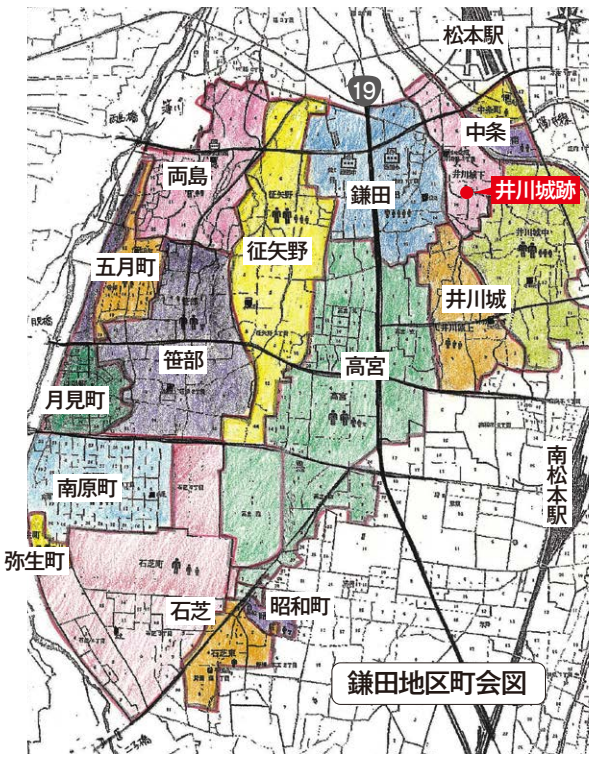
鎌田

「かま」は水の湧き出る釜状の地形のことで、鎌田は湧水地帯の水田の意味です。権現の池に棲む龍神に祈ると、人寄せ時に椀膳を借りられるという伝承がありました。

中世は井川城の城下町で、守護神の天満宮が祀られていました。江戸時代は庄内組鎌田村でした。

両島

上島と下島が一緒になり両島村となりました。江戸時代初期に赤痢がまん延したため、毎年2月8日に巨大な足半(草履)を作り村境の高い木につるし、疫病神を追い払う「お八日念仏と足半」行事として今に伝わっています。コトヨウカ行事として松本市重要無形文化財に指定されています。



松本平の野鳥たち

オナガ (2023年3月松本市南原 写真提供:信州野鳥の会)

ハトより一回り大きく、カラスの仲間と思えぬスマートで水色の美しい鳥。黒いベレー帽をかぶったような頭、長い尾は遠目でもわかりやすい。群れていることが多く、「ゲイ」とか「ゲイキュキュ」と、しわがれた声でよく鳴きかわす。

まつもと散歩

夏の光が
 秋の風と交差する
 季節はくり返し 次の未来へ

(撮影:2023.8.13 新村)